

第 1 回 桐生市学校規模等適正化中央中学校区検討委員会 議事録

○日 時 令和 6 年 1 月 17 日（水） 午前 10 時～午前 11 時 38 分

○場 所 桐生市立中央中学校 3 階 図書室

○出席者

【桐生市学校規模等適正化中央中学校区検討委員会】10 名

委 員 長	小幡 文弘
副委員長	北村 雄大
委 員	深澤 茉理
委 員	齊藤 かほり
委 員	茂木 新司
委 員	関 俊夫
委 員	青柳 明美
委 員	須藤 英隆
委 員	櫻井 禎人
委 員	谷 滋

【桐生市教育委員会】11 名

教育長	小林 一弘
《事務局》	
教育部長	戸部 裕幸
教育部参事	飯泉 尚士
教育部総務課長	園田 博宣
教育部学校教育課長	渡邊 真宏
教育部教育未来室長	原橋 貴史
教育部教育未来室教育未来係長	千葉 敦弘
教育部教育未来室教育未来係	高畑 央
教育部教育未来室教育未来係	和田 泰孝
教育部教育未来室教育未来係	寺島 達也
教育部教育未来室教育未来係	大澤 豊

【傍 聴 者】 1 名

【報道機関】 2 社

○議事の概要

1 開 会 [開始：午前 10 時 00 分]

2 委嘱状の交付

- ・小林教育長から委員へ委嘱状を交付

3 教育長挨拶

- ・桐生市教育委員会 教育長 小林 一弘

本日は、お忙しい中、第 1 回桐生市学校規模等適正化中央中学校区検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆様におかれましては、日頃から教育行政の推進をはじめ、市政の各般にわたりご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。また、この度は、本検討委員会の委員を快くお引き受けいただきましたことに、心から感謝申し上げる次第です。

さて、全国的に少子化が進む中、桐生市においても児童生徒が減少し、小中学校の小規模化が進行しており、教育環境や学校運営への影響が懸念されております。

桐生市教育委員会では、子供たちを取り巻く状況が大きく変化する中、児童生徒にとって、より良い教育環境の構築と質の高い学校教育を実現するため、昨年 3 月に、桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針を策定し、昨年 7 月から 9 月までの間において、保護者の皆さん及び地域の方々を対象として、説明会を実施いたしました。

今後、このたび設置しました本検討委員会において、小中学校の現状や課題等について、認識を十分共有しつつ、関係者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、中央中学校区における学校規模の適正化に向けた協議を進めさせていただくことになります。

今から 36 年前、私が相生中学校で勤務していた頃、平成元年度を振り返りますと、桐生市内の小中学校の児童生徒数は、当時の新里村と黒保根村を合わせて、16,846 人でありましたが、今年度は 6,042 人であり、当時の 36 パーセント、つまり約三分の一になっています。また、今年度、市内全体の小学校 1 年生が約 550 人であるのに対し、6 年後の令和 11 年度の小学校 1 年生、つまり令和 5 年 3 月末現在の 0 歳児は約 350 人です。これは 1 クラス 30 人の少人数学級編制としても、市内に 12 学級分に満たない 1 年生しか 6 年後は入学しないということです。

現在、教育委員会といたしまして、未来を担う子供たちには、複雑で多様な社会をたくましく生き抜くことができるような大人に育ってほしいという思いから、『桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくり』を掲げています。自ら学び、課題を見つけ、解決していく力を身に付け、未来を切り開こうとする子どもたち、気概にあふれた人づくりをしたいと考えています。義務教育段階の学校は、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、社会的自立の基礎、社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。そして、そうした教育を十全に行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていることが必要です。

皆様におかれましては、児童生徒にとって良好な教育環境や充実した学校教育を実現するという事を第一に考えながら、それぞれのお立場から、様々なご意見を賜りますよう、お願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

4 自己紹介

- ・委員及び事務局自己紹介

5 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に小幡文弘委員、副委員長に北村雄大委員を選出

6 議 題

- ・議事に入る前に、事務局から、過半数以上の委員の出席により、会議が成立することを報告。
- ・議事進行は、桐生市学校規模等適正化中学校区検討委員会及び地域協議会設置要綱第 8 条の規定により、委員長が議長を務める。

(1) 学校適正配置の方向性の決定に向けた今後の進め方について

- ・資料 3～資料 6 に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
議長(委員長)	事務局の説明がありましたが、ご質問ご意見などがございましたら挙手をお願いいたします。皆さんいかがでしょうか。
委員	私自身、4 年前までみどり市の大間々町の浅原っていうところに住んでいて、そこの学校区に、今はないですけど福岡中央小っていう、その時は、大体小学校に入学する段階で 1 学年 5 名しかいないような状態でした。それで、子供が小学校に入学するときにすごく考えまして、やはり子供には、たくさんのお友達の中で集団生活を送ってもらいたっていう気持ちがあったので、私の職場兼実家の学校区の南小学校に入学したんですけども。そのときにやっぱり一番心配だったのが、自宅周辺ではない学校ということで通学にはすごい不安を感じました。なので、こちらにも書いてあったようにスクールバスを運行するとか、親が送迎をする時の駐車場の確保などこれからいろいろ協議していきたいなと思っております。
議長(委員長)	ありがとうございます。
委員	うちは子供が今 4 人で、長男が中央中学校でお世話になっております。次男、三男が西小学校でお世話になっております。一番下の娘が今、年長さんで、今度小学校に上がるのですが、やっぱり単学級で危ないなっていう印象は受けたんですけど、今すぐにといい考えとか答えっていうのはやっぱり出なくて、次男の 5 年生のクラスも今単学級で、とりあえずみんな仲良く過ごしているのでもいいなと思うんですけど、やはりクラス替えがないことにちょっと不満というかクラス替えがあったらいいなとよく耳にするので、これから考えて、クラス、学級が増えたらいいなと思います。
議長(委員長)	ありがとうございます。
委員	今、桐生市の実態は説明を聞いてよく分かりましたが、果たしてこういう問題っていうのは隣接する市、太田だとか、みどりだとか、伊勢崎、高崎、

発 言 者	発 言 内 容
	前橋の実態っていうのはどうなのかを今感じました。桐生だけがこんなにすごいのか、あるいは、他は逆に増えているところもあるのではないかな。このような問題を検討する会っていうのは他の地域ではないところもあるんじゃないかと考えて、いろいろ資料を聞かせていただきましたが、どうなんですか。役所の方々、そこらへんの他の市の実態っていうのをご存じでしょうか。そこをちょっと聞きたいなと思っています。
議長(委員長)	では、事務局お願いいたします。
事務局 (教育未来室長)	少子化は全国的な傾向で、県内の近隣でも、既に太田市とか、あるいはみどり市でも同様な検討、審議会とかを立ち上げて、これから対応を考え始めているところがございます。また、隣の足利市でも同様に対応を考えているようです。
議長(委員長)	よろしいでしょうか。
委員	資料6で望ましい学校規模、学級規模の目安について説明をいただきました。基本的なことで勉強不足で分からないところがあるのですが、小学校では1クラスと2クラスではサポートをして児童を育み見守る先生というのは、人数的にどのように変わってくるのですか。1クラスの場合は、担任の先生だけがその学級を見るということになるわけですね。2クラスの場合は、各学級の担任の先生のみということですね。小学校1年生とか2年生の場合は1クラスであってもサポートをする先生がいてくださることはないですか。そういう基本的なことが、児童を育む先生の数という部分が1クラス2クラスで違ってくる。1クラスだと1名だけの先生が見守り育み指導するということで、今の状態だといいわけですね。2クラスだと担任の先生である先生が一人ずつ付くのみということですか。そのところをちょっと説明していただけるとありがたいなと思います。
事務局 (学校教育課長)	教員の配当につきましては、学級数で県の配当基準がございまして、決められることになります。基本的に1学級の場合には一人の担任の先生がその学年全体を見る。プラス入ることもありますし、また、別の立場の方、担任という形では入れないということになりますので、1学級の場合には基本的には、その担任の先生が見ていくということになります。2学級の場合には、隣のクラスもということで複数の担任の目で見られる。ただ、単学級の場合にも、学校全体で見ているというのが現状かなと思います。県の配当基準、学級数によって教員が配置されるということでございます。
事務局 (参事)	学級数の考え方ですけども、学年の学級数ではなくて学校全体の学級数というふうに考えると分かりやすいと思います。例えば、ここで9クラスっていう、中学校で出ましたが、学級数プラス若干名の先生が付くと、例えば、9学級の学校であれば9人プラス1、2名の先生が付くというふうな感じになるということです。そうすると、その学級数が少ないと学級数分しか先生が付かない。プラス校長、教頭、事務、養護教諭というのが原則です。これが国の決まりで降りてきているのですが、群馬県に配慮していただいて、群馬

発 言 者	発 言 内 容
	独自のプロジェクトとかいろんな予算を取っていただいて、特別に更に付け加えて県で配当してくれるとそういう制度があるので、とても助かっています。原則を考えたときに、9 学級あると先生が最低でも 9 人はいるので、教科分の教員がそろえることが可能だというようなことが考えやすいのかなと思いますので、その中で、例えば 1 年生大変だからその配当数の学級を持たない先生を 1 年生に回そうとか、今年は 3 年生が本当にいろいろ大変な学年なので 3 年生に多めに担任以外の先生をつけようとかってというのは、学校の中で判断していただくことになると思います。
委員	学級数のプラス数に応じて授業や生徒の背景を見守り、指導する先生方の数が変わってくるというようなことが出てきて、どのような背景を児童や生徒に持ってきた方が子供たちにとって一番いい環境を与えられるものかなっていうことを、この学級数を見ながら考えていたところです。1 クラス、一人の担任の先生のみが児童たちを見守るよりも、複数の目で温かく、のびのびと、一人だからいけないと否定しているのではなく、違った観点で指導する先生方が増えて、また、そのことによって児童や生徒がちょっと視点の違う上で育めるような環境に持っていけるということもとても重要なことかなと思いました。これからいろいろなものが出てくると思いますけれど、説明の中では 1 か所そこが疑問だったものですから。ありがとうございます。
議長(委員長)	お願いします。
委員	ありがとうございます。先ほどの説明で地域協議会の編成の方法とか、この先の見通しについてご説明いただいた中で、すごく本当に壮大というか、大きな流れになるのかなというふうに実感しました。編成要請等につきましても、桐生市全体のことも考えながら、本当に学校区が抱える課題とか、細かいところをしっかりと考えていかなければいけない、本当に重いなと実感しております。西小学校に関しましては、学級減が来年度も今のところ見込まれております。本校は北小の学区と重なる部分がありまして、学区を選べるので児童数の多少の増減がある中で、今、新 1 年生を見ますと、ギリギリのラインにいたりします。2 クラスになるのか 1 クラスになるのか、それは、今後ずっとそういうことが考えられるのかなと、お隣の北小学校は本当に今全部 1 クラスしかない状況ですけども、西小学校も先ほどの統計を見て、本当に近い将来全部 1 クラスになってしまうんだなって考えると、子供たちがたくさんいて、いろんな子供たちと関わる中でいろんな刺激を受けて、子供たちが育っていくというのはとても大切なことだと私も考えております。そういった中で、ある程度の規模というのは必要かなというのが個人的な考えです。あわせて、職員集団を考えたときに、先生の数も学級数が少ないと、先ほどの課長、参事の説明にもあったとおり、基準の数しか教員がいないと、本当に学級数が少ない学校の教職員は少ないです。そういった中で、子供たちに充実した教育とか、あと子供たちの安全面とかを考えていった時にも、職員が少ないよりもたくさんいたほうが、絶対にいいのに決まっていますので、そういった中でも適正規模の学校というのが必要なのかと今のところ自

発 言 者	発 言 内 容
	分は思っています。資料をもう 1 回しっかり読んで、今後どうしていくべきなのかというのを考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
議長(委員長)	ありがとうございます。
委員	南小学校は、来年、学級が 3 学級減り、再来年は更にもう 1 学級減ります。というのが実際に差し迫まっているところなのですが、それで教職員数について 3 学級減りますから単純に三人教員がいなくなってしまう。国の基準で配当してもらっているものと、群馬県のニューノーマル群馬プロジェクトということで職員を配置してもらっているものと、桐生市教育委員会で予算立てしていただいて、教育相談員であったり、あるいは、介助員であったりということで、いろんな行政のご協力をいただいて職員は付けていただいています。ただ、実際それだけ付けていただいていますけど、学級が減ってきますので、職員が、どんどん減っていきます。小規模の学校になってくれば、今、桐生市教育委員会が教育活動支援員を二人付けてくださっているのですが、来年付けてもらえるか不安があり、介助員さんが今は二人付けてもらっているんですけど、来年二人はこの規模だと付けてもらえなくなってしまうのか、予算が通らないかなんて思いながらいます。だから、教職員が三人減って、更に支援員さんが減って介助員が減ってというような状況が出てきます。実際に学校運営を考えていったときに、クラブとか委員会とか学校全体でやっているもの、これも今やっている数は持てないなど。また、引渡し訓練なんか、今、グループで担当の先生付けていますけど、教職員数がなくなってしまうと、そのグループもちゃんと構成ができなくなってしまう。というように先生が減ってしまうっていうことは非常に学校経営上、子供の安全な通学を管理するためには支障が出てしまいます。今、ご説明いただいた中で令和 7 年 3 月 31 日に一定の方向性をという目処を立てていただいているのですが、その後どうなるかという見通しがもし分かれば、教えていただければありがたいなと思います。よろしくお願いします。
事務局 (教育未来室長)	中央中学校区の中で、小学校、さらに、進学する中学校の将来像の推移を見ながらいろんな協議をしていただくわけですが、中学校区内だけではという部分も当然考えて協議されてくると思います。その次の段階としましては、ここに出ています地域協議会という形で、基本的には隣接する中学校区と具体的に統合なりという形で協議に移行していただく形になります。その際には、こちらの中学校区の中から三人を予定しておりますが、この中央中の中学校区の考え方をもって、他の隣接する中学校区と協議をしていただいて、具体的なことを決定していただき、決定したらその決定した単位の具体的な委員会っていうのができるかなと考えております。
議長(委員長)	よろしいでしょうか。
委員	冒頭の挨拶のところでも少しお話しさせていただいた内容と重複しますが、来年度本校に入学します、1 年生、現在 69 名ということで報告をい

発 言 者	発 言 内 容
	ただいております。多分こちらの資料5の方にあります中央中学校の来年度令和6年度の人数から換算した各クラス数が9となっておりますけれども、実数としては、来年度は3、3、2の8学級になるということでございます。多分このデータを換算した根拠というのが、現在、西小、南小、各校にいる児童の数ということで、計算してもらっているわけですが、その数で言うと、全員来ればこの9学級になるという試算をしていただいた数だと思います。御存じのように、中央中学校区には二つの私立中学校がございます。また、移動手段として、駅も西桐生駅、桐生駅の2駅、それとJR、渡良瀬溪谷、そして上電ということで、3路線ございます。新桐生駅は他の学校区になるわけですが、橋を渡るとすぐの位置にありますので、中学校を選ぶ選択の幅も広い学校区であるというのが、他の中学校区とは違った特徴でございます。そんな傾向がございますので、例年本校に入ってくる生徒の数というのは、単純に小学校を卒業する児童の数だけでは推し量れないところでございます。そうならないために中央中としては特色ある教育活動を進めて、なるべく本校に入っていただくように努力はしているところでございますけれども、他中学校地域とは違ったこのような特徴もあるので、なかなかその辺、生徒の確保に難しい面があると日々感じているところでございます。この資料5で試算していただいた分析では、6クラスになるのが令和12年度からというわけですが、来年の生徒の様子、再来年その次の様子を地域の実態を踏まえながら考えていくと、もう少し早い段階で6クラスになってしまう可能性があるかなというのが学校長としての率直な感想でございます。私が、統合前の昭和中学校で教員をしておりました折には、ちょうど各学年2クラスの6学級ございました。6学級あることで毎年のクラス替えもでき、そして、御存じのように中学校には、運動会もございます。合唱コンクールもございます。その度ごとに隣のクラスの担任の先生とお互い頑張ってクラスの子供たちを盛り上げて、切磋琢磨させながら頑張っていこうということで子供たちどうしも、やはりあのクラスには負けない、隣のクラスには負けないという気持ちで非常に切磋琢磨して活動していた、学習を進めていたなというのが感想としてあります。この資料を見させていただきますと、6クラスということで、とどまる時期もあるのですが、将来的に見ると3クラスになってしまう、要するに単学級になってしまうという時期がもう差し迫っているのかな。先ほどお話ししましたように、現状を考えると多分この想定より早い段階でこうなってくる可能性があるかなと思うので、そういう意味では非常に私自身も危機感を感じているところでございます。また、現在の本校の部活動、数多くの部活動が活動しているところでございますけれども、私が昭和中にいたときの部活動数と比べてみますと、現在、非常に多い数です。私が昭和中にいたときには、吹奏楽部、美術部、バレー部はありませんでした。現在、その吹奏楽部、美術部でかなりたくさんの子供が活動しております。バレー部の方もまだ活動しております。このままどんどん人数が減っていくと、部活動そのものを維持することが非常に難しくなってくるかな

発 言 者	発 言 内 容
	ってというのが率直な感想でございます。私自身も何かいい方法は今すぐないのですが、様々に検討していかなければいけないかなと考えているところでございます。
議長(委員長)	お願いします。
委員	この資料、本当によくできていますが、特に桐生市の人口を考えると10年で2万ずつ減っていく、30年間で桐生の人口5万台とこれもデータとして出ているわけですが、当然子供も減るのは当たり前ですが、今、この昭和地区の検討委員会ということですが、どう見てもこれ全部の地区を考えないといけないのは当然ですけど、我々がやるのはどこら辺までやっていいのかっていうのがまず分からないです。それと、中央中学校が6クラスから3クラスになってしまう。資料のデータを見ていると、桐生の市内全体を見ても6クラスの学校がなくなると。そういう中で、中央中学校検討委員会はどこまで話を進めていったらいいか分からないんですけど、そこら辺教えていただければと思います。
事務局 (教育未来室長)	例えば、小学校が統合してもまたすぐという状況も考えられます。時系列で見ますと、令和30年度までの推計ではございますが、こういったものも参考にしながら、中央中学校区だけではなく他と連携して、学校規模は、小学校であれば一学年2学級以上、そして、中学校で言えば教職員のこともございますので、3学級以上を望ましい学校規模としております。それを常に維持できるような状況を堅持していただけるような議論をお願いできないかと思っております。そうしますと、かなり長期的な10年、20年っていうところまで見て検討していただきたいと考えています。したがって、隣接する中学校との地域協議会の移行っていうものも将来を見据えた上でご協議をしていただければと考えているところでございます。
議長(委員長)	ありがとうございます。
委員	昨年の説明会にも参加させていただいたとき、まず感じたことは、もちろん教職員の問題もありまして、子供の問題もあるんですけど、保護者の問題です。今、私がやっているPTA活動についても、子供が減れば親も減る、親も減れば、PTAの活動ができる人も減ってくる、人が減ってくると組織もだんだんスリムになってくる。そのあたりも今、市のPTA協議会で協議されているところなんです。そういうことを踏まえまして、いずれにしても指針が出た限りは、これに則るしかないなと思っています。いずれにしても中央中学校区だけではどうにもならないのは目に見えているので、あとは本当に隣接する区域のどこと組むかという話になると思います。ただ、東西南北一緒でも2042年には検討委員会が設置されてしまうので、それがいいものかどうか。逆に言えば、境野中学校区と組むとこの数値ですけど、しばらくは持つというデータもあるので、そういうところにもなってしまうのではないかなって個人的に感じています。そうすると、送迎の問題、どこに小学校が立つかもあるんですけど、それは、この資料を見る限りでは後かなと思っている

発 言 者	発 言 内 容
	ので、まずは人数を見てやるしかないのかなと思います。西小、南小も含め、市内の何校も 150 周年迎えて、すごくいい年になっているのですけれども、やはりその 10 年後 20 年後、本当 20 年ぐらい見ないといけないのかなと思います。3、4 年経ってまたこういうことやるとそれはそれだと思うのですが、いずれにしても私的には、まずはどの隣接する所とまとまるのがいいのかなと考えております。以上です。
議長(委員長)	ありがとうございます。私のほうからですが、今ここで検討していただいている中学校区の検討委員会という形の中で、令和 7 年 3 月 31 日までと区切られておりますけども、今後一応進める中で地域協議会という形の中で広範囲に広げていくという部分も当然必要になってくるかと思います。皆さんのご意見を聞く中で、今後方向性を決めていければということで考えておりますので、また皆さんのご協力よろしくお願いいたします。いろんな形の中で皆さんご意見伺いましたけれども、何か他にございますか。本当に全員の意見が聞けたことに感謝しております。本日の議事は以上ですが、その他、委員の皆様から全体を通して何かご意見等がございましたら挙手をお願いします。よろしいでしょうか。本日はありがとうございました。それでは、本日予定しておりました議事は以上になりますので、ここで議長の任を解かせていただきます。皆様、ご協力ありがとうございました。

7 その他

8 閉 会 [終了：午前 11 時 38 分]